ひょうごの 地域と学校の協働活動

令和3年度版

01／地域の人は、学校応援団
02／「東条は一つ」が合い言葉
03／読書を楽しむ環境づくり・ゲストティーチャーから学ぶこと
04／誰もが通える、学びの場づくり・SHIMA LABO（島ラボ）
05／兵庫県版コミュニティ・スクールの取組と事例紹介
06・07／学校と地域のパートナーシップ
08／PTA等による地域学校協働活動

発　行
兵庫県教育委員会事務局社会教育課
〒650-8567　神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
TEL：078-341-7711（代表）
兵庫県教育委員会 社会教育課
03教P4 - 019A2

地域の人は、学校応援団

伊丹市立笹原中学校区　笹原小学校「笹ポーター」の活躍　九九学習の支援

伊丹市の笹原中学校区（笹原中・笹原小・摂陽小）では、今年度、兵庫県教育委員会の「地域と学校の連携・協働スキルアッププログラム」を受けて、様々な取組をしています。その中で笹原小学校の「笹ポーター（ボランティア組織）」が実施している九九の学習支援の活動を、11月4日に参観させていただき、お話を伺いました。

Q　九九の学習支援はどんな活動ですか?

小学２年生を対象に、地域の方が、長い休み時間やお昼休みに、教室前の廊下等で九九の暗唱を聞き取る活動です。笹原小学校では２ヶ月間、毎日、長い休み時間と、昼休みに実施しています。

Q　学校と地域との関係は変わりましたか?

笹ポーターの活動をすることで、学校とのつながりが変わってきました。地域行事だけだった頃に比べて、地域と学校の壁がだんだん低くなってきましたね。

参観者の印象に残ったこと

活動のきっかけについてお話を伺った、ある笹ポーターさんの声を紹介します。

私は、昨年、笹ポーターさんから声をかけられたのがきっかけで参加しました。

今年、２回目の笹ポーターをしようと思ったのは、孫も小学２年生になったから。活動の中で、子どもから元気をもらえるんです。

参観した活動の様子をレポートします。

２時間目終了のチャイムが鳴り、２年生が廊下に出てきました。廊下には、10人以上の笹ポーターがずらりと並びます。あいさつと共に「九九がんばり表」を差し出し、聞き取りが始まります。

「今日は、どこの段ですか？９の段の上がり？難しいけど、がんばろうか。」

廊下中に、子どもたちの声と、笹ポーターさんの「はい、声も大きくてよくできたね」という声が聞こえます。聞き取りが終わると、笹ポーターさんが「がんばり表」にサインをして返してくれます。最後の子どもが暗唱を終えた数分後、３時間目開始 のチャイムが聞こえてきました。

参観後、笹ポーターさんにお話を伺いました。

Q　この活動のきっかけは何ですか?

学校の先生との交流会で、「九九指導の手伝いをして欲しい」という声を聞いたのがきっかけで、昨年始まりました。笹ポーターは地域の人に声かけをして、今年は30名参加しています。

Q　活動の中で悩むことなどはありますか?

子どもたちとの関わり方で、どうしたらいいかなと思うことはあります。学校には、「CS（コミュニティ・スクール）ルーム」という、笹ポーターの控え室があります。そこで、相談したいことや気になることがある時は、活動後に笹ポーター同士で相談したり、いろいろ教えてもらえたりするんです。

笹原中×笹原小×摂陽小　合同研修会　中学生による学習支援

Q　スキルアッププログラムを実施するにあたりどんなことを意識して取り組みましたか?

特に意識して取り組んだのが、①３校の学校運営協議会委員の間で情報共有や交流をすること、②小学生への学習支援を中学生や保護者らを含む地域の人が推進することです。

Q　①は、どんな活動でしたか?

笹原小学校の研修会に、3校の学校運営協議会委員が参加しました。「教育のユニバーサルデザインと学校が取り組むべきこと」をテーマに3校の関係者がともに学ぶことで、教育課題や現状認識を共有できました。

Q　②は、どんな活動でしたか?

小学校で行っている土曜学習の活動に、中学生が自主学習サポートとして参加してくれました。

笹原中学校では、５年前から「笹トレ（上級生が下級生に教える取組）」をしています。ここで培った力を、小学生に教える時に発揮する良い機会になりました。

（中学生の声）

小学生からのお礼のメッセージが嬉しかった。正解が多くて、がんばってるなと思った。

○　兵庫県教育委員会では、地域と学校の連携・協働の先進的な取組や地域の課題解決に向けた取組の実施を支援するため、「地域と学校の連携・協働スキルアッププログラム」を、県内６市で実施しています。この冊子の１～４頁では、県内６市で今年度取り組まれた、スキルアッププログラムの活動を紹介しています。

「東条は一つ」が合い言葉

加東市立東条学園小中学校　地域の産業や文化に触れる　地域の特色・魅力を知る

令和３年４月、加東市東条地域の２小学校と１中学校が統合し、義務教育学校として、東条学園小中学校が開校しました。新しい学校でも、旧学校区それぞれの特徴や良さを生かし、子どもたちが地域の産業や伝統文化に触れ、地域の特色や魅力を知る学習活動を行っています。今年度実施された様々な活動を紹介します。

（活動１）花植え活動

学園生と地域の方々で学園前の花壇に花を植える活動を実施しています。天神地区の花壇に地域ボランティアと８年生が植え替え作業をしました。

（活動２）ふるさと学習

「山田錦マスターになろう」「きせつを味わおう」など、営農組合の協力のもと、地元の特産物を学べる体験講座を実施しています。

（活動３）地域見守り隊

交通委員やシニアクラブ、民生児童委員など地域の方に協力をお願いし、登下校の見守り活動を実施しています。

（活動４）クラブ活動の支援

地域から講師を招いて、茶道、華道、民話等の文化体験部活動の参加を通して地域の方と交流しています。

（活動５）東条の匠

地元の職人の技術を体験します。13の職種から希望する職種を選び体験する中で、地域で働く方の姿から学び、交流ができました。

（写真）

花植え活動	
ふるさと学習（苗に土入れ）	地域見守り隊
クラブ活動支援（茶道）	東条の匠に学ぶ（製菓）

コーディネーターを通じた地域とのつながり　学校運営協議会での意見交換

学校の先生にお話を伺いました。

Q　どんな課題がありましたか？

地域学校協働本部の体制や推進員の存在を、もっと多くの方に知ってもらうことが課題でした。また、ボランティア活動に参加している方の高齢化が進んでいるので、子どもたちの保護者世代に活動に参画してもらうなど、様々な方に参加してもらいたいと思っていました。

Q　どんな工夫をしましたか？

地元の、東条公民館の方に、学校の地域学校協働活動推進員（以下、コーディネーター）になってもらい、この方に学校運営協議会の委員も兼任してもらうことにしました。すると、コーディネーターが公民館にいてくださることで、公民館を通じての声かけがしやすくなりました。具体的には、地域の要望や意見を学校側へ届けること、活動の講師を選定したり、地域ボランティアを募集したり、ボランティアの調整をすること、公民館で活動する地域の方へ、学校を支援する様々な活動の声かけや協力をお願いすることが、やりやすくなりました。

Q　学校にも工夫があると伺いました。

地域の方に、学校に来てもらいやすいように、新しくできた校舎には「地域交流室」を設けて、地域の方が出入りしやすいようにしています。学校の教職員用とは別に、ボランティア等の地域の方専用の出入口があり、地域の方が、専用の出入口から直接入って、地域交流室を活動に使用してもらえるようにしています。この部屋と学校エリアとをシャッターで区切ることもできます。

Q　学校運営協議会を運営する中での工夫はありますか？

「学校運営協議会」では、学校の経営方針やめざす子どもの姿について、学校の先生と地域の方とが協議する時間を十分に確保しています。学校の先生と地域住民の委員が、出てきた課題について、継続的に話し合うことで、子どもたちの変化を共有することができています。

例えば、６月に実施した学校運営協議会では、「東条学園生に求める姿」について、少人数グループに分かれて意見交換をしました。その中で、「思いやり、責任感のある子どもに育ってほしい」といった、求める姿について話し合われました。また、「通学班の高学年の児童が、通学路で停車してくれた車両の運転者にお礼のお辞儀をしている姿を見かけて、とても嬉しい」、「あいさつが不十分であると感じることもあるので、私たち地域からも積極的にあいさつしたい」という、地域の方の意見がありました。そこで、半年後の10月（第３回）の学校運営協議会でも、東条学園生の姿について少人数グループに分かれて意見交換がされ、「よくあいさつをしてくれるようになった」、「声が小さい、元気がない子もいる、今後は、地域からも積極的に声をかけていきたい」、などの意見がでています。

学校運営協議会を通じて、学校と地域の方が子どもたちの様子を共有することができています。

読書を楽しむ環境づくり

宍粟市立一宮北小学校　読書ボランティアの活躍　子どもたちが使いやすい図書館へ

一宮北小学校は、平成28年に、３つの小学校が統合してできた小中一貫校です。宍粟市では、市内の12の小学校すべてに読書ボランティアグループがあり、絵本の読み聞かせなどを行っています。一宮北小学校でも、読書ボランティアが「朝の読書」の時間に絵本読み聞かせや「図書祭り」での朗読劇を行っています。一方で、開校時に新設された図書室には、これまで各学校に置いていた全ての蔵書を配架することができず、書架に並ぶ本も、分類ラベルが整理できていませんでした。そこで、読書ボランティアの方とともに、図書室の環境整備に取り組みました。その活動について紹介します。

Q　今年行った活動について教えてください。

夏休みに、学校司書と読書ボランティアの方とが一緒に、図書館の整備をすることにしました。主な内容は、

・図書を分類順に配架すること
・日焼けした分類ラベルを貼り替えること
・おすすめ本コーナーの設置　　です。

子どもたちが使いやすい、魅力的な図書館を夏休み中に作ることを目標にしました。

Qどんな工夫をしましたか？

読書ボランティアの方にとって、負担にならないような取り組み方を心がけました。「楽しく、負担にならない範囲でやりたい。しんどい、負担だと感じると長続きしない」という意見がでたので、意見を大切にしたいと思いました。そこで、活動時間を柔軟に設定しました。「９時30分から15時30分まで、学校司書が作業しているので、都合のいい時間帯だけ来てください」と伝えました。すると、子どもが宿題をしている間だけとか、午後の１時間だけというように、交代しながら、気軽に参加してもらえるようになりました。また、ラベルを貼り替え、書架がきれいになると達成感があり、楽しく作業ができました。

(写真)

ボランティアによる おすすめ本紹介	
整備作業	季節感のある 配架

ゲストティーチャーから学ぶこと

丹波市立北小学校・中央小学校 他　地域の人の夢や思いを学ぶ　将来や生き方を考える

(写真)

太鼓名人さんに学ぶ	
名人さんに 学び隊 (一輪車)	大納言小豆の 豆知識教室
	こども手話教室

丹波市では、地域の方の専門的な知識や技術をいかした特色ある授業づくりに取り組んでいます。丹波市の小学校で行われている、地域からゲストティーチャーを招いて実施されている授業づくりの取組について、お話を伺いました。

Q　どんな活動ですか？

（活動１）

「名人さんに学び隊」（北小学校）

太鼓名人さん、アイデア名人さん、DIY名人さん、お菓子作り名人さんなど、様々な名人さんに技を教えてもらいます。子どもたちは、弟子入りしたい名人さんを選んで、インタビューと体験活動をします。インタビューを通じ、名人さんが考える仕事に対するやりがい、思い、願いなどを聞き取ります。

（活動２）

特別授業「みんなえがお」（中央小学校）

学校で先生が個別懇談会をしている３日間、低・中・高学年に分かれて、地域からゲストティーチャーを招いた特別授業を、１日１コマずつ開催しています。

○ おもしろ楽器教室
○ 俳句教室
○ こども手話教室
○ 大納言小豆の豆知識教室

地域の方の姿から、子どもたちは「人から学びたい」「あの人のようになりたい」と感じます。こうした体験を通じ、夢や希望を持って将来の生き方を考える力が育まれています。

Q　どんな工夫がありますか？

ボランティアサポーターに登録している人数は十分とはいえません。支援してくれる地域の人材には限りがあります。そこで、多くの方に、取組を知ってもらうために、学校のホームページや学校からのお知らせを通じて行事の案内や、サポーター募集をしています。

誰もが通える、学びの場づくり

養父市の取組　地域の伝統文化を体験する機会づくり　巡回する土曜学習教室

養父市では、放課後子ども教室で地域と連携した活動を実施しています。活動の充実に向けて、今年度、全小学校区での放課後子ども教室の実施と、子どもたちの学びの場としての土曜学習教室の開催に取り組みました。市の担当者にお話を伺いました。

Q　放課後子ども教室では、どんな活動を行っていますか？

放課後子ども教室では、やぶ文化祭への作品の出展や、広谷っ子教室で和太鼓の練習に取り組むなど、伝統文化体験を実施しました。

Q　土曜学習教室では、どんな活動を行っていますか？

市内の小学４年生～６年生を対象とし、土曜日午前の２時間、市内の公民館等の施設で学習講座を実施しています。各自が、算数・数学の教材に取り組み、分からないところは講師に教えてもらいながら、自分のペースで学習に取り組んでいます。６月から毎月２回実施していますが、11月からは中学３年生にも対象を広げ、より多くの子どもたちに、開かれた学びの場を提供しています。

Q　どんな課題がありましたか？

協力者の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症への恐れなどから、地域の協力者を募ることが難しくなっています。また、土曜学習教室については、養父市は広いため、地理的な問題として会場まで保護者等の送迎が必要となる可能性があります。

Q　どんな工夫をしましたか？

放課後子ども教室では、市の職員がコーディネーターとして、学校が求めていることの把握と、地域の方が伝えたいことを調整し、地域文化の伝承というテーマに取り組みました。土曜学習教室では、会場を市内に４ヵ所設け、４会場を巡回しながら教室を実施することにしました。毎回参加する子どももいれば、自宅から通える会場のみに参加する子どももいます。自主的な参加を呼びかけています。

(写真)

広谷っ子教室（太鼓）
やぶ文化祭へ出展
土曜学習教室

SHIMA LABO（島ラボ）

南あわじ市立沼島小学校　島の外とつながる　暮らしが便利になるアプリの開発

(写真)

オンライン交流	
アプリの開発	タブレットを使って編集

南あわじ市では、放課後の体験活動（アフタースクール事業）を展開しています。しかし、コロナ禍の中、体験活動には制限がありました。特に、市内の最南端にある沼島は離島であるため、他の地域との交流が難しい環境です。そこで、体験活動が難しい状況の中で、子どもたちに自主性や社会性を身につけさせるという目的のもと、ICTを活用した取組を行い、子どもたちの自主性やコミュニケーション力を育てています。市の担当者にお話を伺いました。

Q　どんな活動をしましたか？

放課後のプログラミング体験活動として、『SHIMA LABO』(島ラボ)をはじめました。「暮らしが便利になるアプリを開発しよう」を目標に、プログラミングを学んだり、島外の小学校の児童とオンラインで交流したりしています。

Q　どんな工夫をしましたか？

『SHIMA LABO』（島ラボ）は、より多くの子どもたちが参加できるよう、全校一斉下校の日(水曜日)に、学校の空き教室で実施しています。また、学校の協力により、子どもたちがふだん授業等で使用しているタブレットを活用し、講師は地元在住のWEBエンジニア・プログラマーの方に依頼しました。

今後は、引き続き、自分が作りたいと思うアプリの開発をすすめたり、オンラインによる島外の子どもたちとの交流を深めていくことで、相互の地域を知り、さらに島の魅力をPRできるよう、コミュニケーション力や想像力を育める機会を作っていきたいです。

兵庫県版コミュニティ・スクール始まりました

令和３年度から、県立学校におけるコミュニティ・スクール導入に向けた取組として、**「兵庫県版コミュニティ・スクール（地域連携強化校）」試行**の取組を始めています。校区や学びの範囲が広い、高等学校や特別支援学校では、各校が推進する教育の充実を図るため、様々な関係先との連携が求められています。そこで、「兵庫県版コミュニティ・スクール」では、大学や専門学校、NPO法人、民間企業等も含め、学校外の存在全てを「地域」ととらえ、**学校が推進する特色ある教育を、地域社会が応援する仕組みづくり**をめざしています。

兵庫県版学校運営協議会

※学校が協力を求めたい方に、委員になってもらいます

地域と連携した教育活動を実施するための協議

- 学校が地域社会の協力を得て実施したい活動（取組）の相談
- 学校や生徒の魅力（強み）を地域へ発信

学　校

- 地域社会の教育力を学校教育に活かす機会等の相談
- 地域社会の情報発信

地　域

こんな活動をしています

○ 地域のスーパーマーケットで通年の販売実習の機会を持てました。
○ 地元旅行社と高校生とで地元のバスツアーを企画・実施しました。
○ 「総合的な探究の時間」で「地域学」の指導や助言をしてもらっています。
○ 駅の構内で、福祉・介護実習をしています。
○ 児童センターで、生徒による「おもしろ科学教室」を実施しています。

こんな声を聞いています

○ 「コミュニティ・スクール」のイメージを持ってもらうことで、地域の方に連携を求めやすくなった。
○ 地域の方に、学校や、生徒の強みを知ってもらう機会になった。
○ 学校では思いつかないアイデアを得られた。
○ 普段は関わることが少ない高校生と関わり、今の高校生が考えていることを知ることができた。とても良い印象を持った。

事例紹介

深江音頭復活プロジェクト

県立東灘高等学校　**時代の波に埋もれた文化の復活**

県立東灘高等学校では、これまでも地元企業の協力のもとドローンを活用した防災の取組などを進めてきました。阪神電鉄の深江駅から、マナー啓発放送に使用する音楽を作成してほしい、という依頼があったことがきっかけで、戦後の昭和21年に作成されたものの、時代の波に埋もれてしまった、地元の曲「深江音頭」の復活に取り組みました。

当時の歌を覚えている年配の方に、本校で歌を録音してもらい、吹奏楽部が譜面に起こしました。東灘高等学校の生徒に「深江音頭」について知ってもらうために、写真部が、地域の方とともに啓発パネル等を作成し、校内で展示を行いました。この展示は、その後、地元の神戸深江生活文化資料館でも展示されました。また、地元の踊りをされている方に振り付けを作ってもらい、体育祭で、地元の方や地元企業の方に見守られながら、１年生の女子全員で「深江音頭」を踊りました。地域の文化を復活させることができ、地域の方にも喜んでもらえる取組ができました。

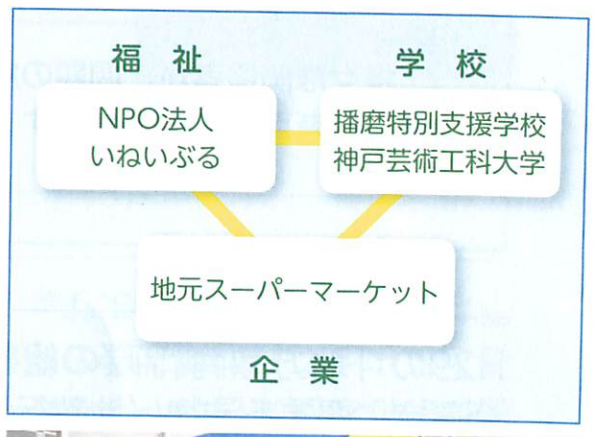
(写真)
写真部のパネル展示
体育祭で「深江音頭」を披露

産学連携事業 Café はりま

県立播磨特別支援学校　**修得した技能を活かす機会**

県内の特別支援学校では、学校卒業後に役立つ技能を身につけるため、高等部の生徒たちが「兵庫県特別支援学校技能検定」に取り組んでいます。今年、この検定を受けた生徒たちが、地元スーパーマーケットの敷地内で、コーヒーの販売をすることになりました。取組は、学校と地元企業と社会福祉法人が協力して実施しました。

販売スペースは、神戸芸術工科大学の学生とミーティングをして、いっしょに作りあげていきました。コーヒーのいれ方は、地元のNPO法人「いねいぶる」の方に教えてもらい、練習を重ねました。スーパーでの販売はとても緊張していましたが、あいさつが苦手な生徒も、地域の方に笑顔で対応できるようになり、地域の方とコミュニケーションを深めるきっかけになりました。取組を通じて、地域の方との交流が深まり、地域の方に障害を理解してもらうとともに、生徒も社会の一員としての自覚をもつ機会となりました。



(写真)
産学連携の模式図
販売実習の様子

学校と地域のパートナーシップ

近年、学校と地域を取り巻く課題は、複雑化、多様化しています。学校は、いじめや暴力行為等の問題行為の発生や不登校生徒の増加など、多様な子どもや保護者への対応が必要になっています。他方、地域でも、家族形態の変化や価値観の多様化等により、地域社会における支え合いやつながりが希薄化することによって、地域社会の停滞や教育力の低下などが指摘されています。

学校と地域が同じ目標に向かっていける

目標の共有
『よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を作る』

学　校

地域とともにある学校づくり

学校運営協議会

学校運営や必要な
支援について協議

よく議論されること

- ○ 学校行事のありかた
- ○ 通学路の安全対策
- ○ 学力向上に向けた
  家庭との連携
- ○ 学校の課題
- ○ 学校運営協議会の方向性

様々な関係者が、問題の解決にむけて対話をすること（熟議）から、新しい考え方が生まれます

学校を核とした地域づくり

地域学校協働本部

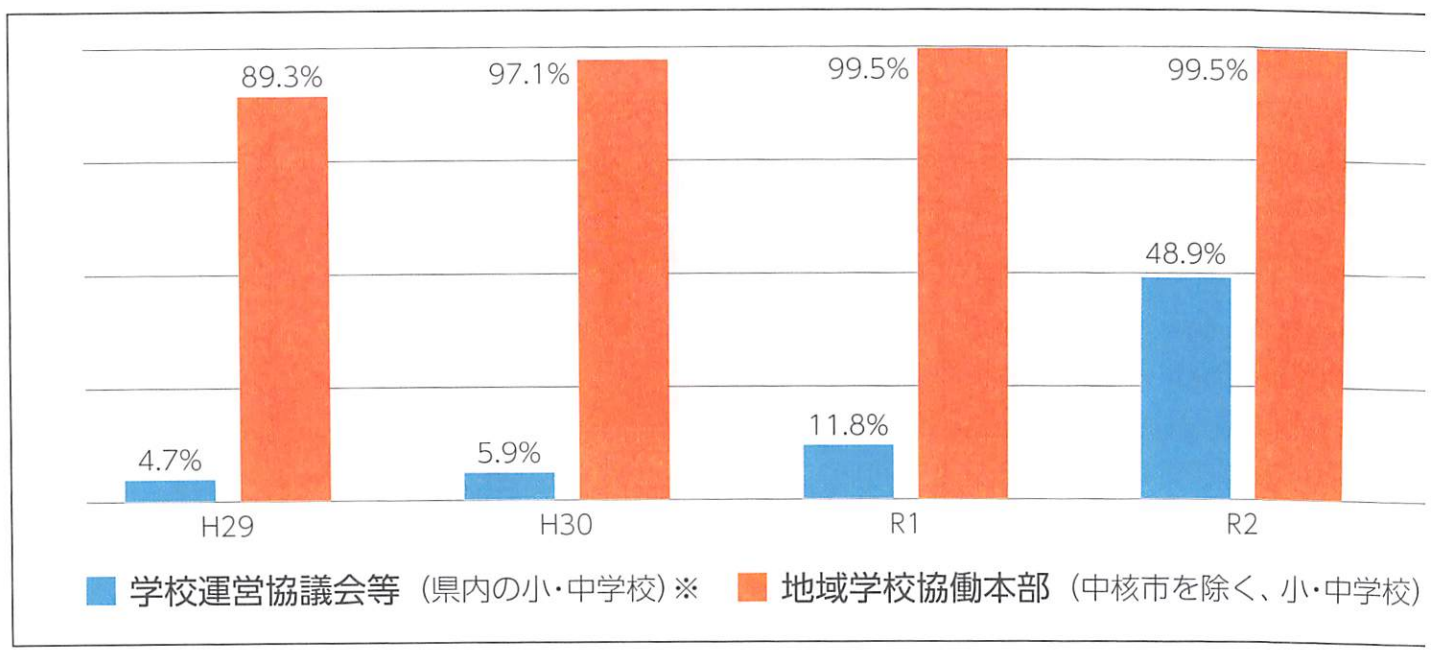
地域学校協働活動

- ● 地域による
  学校を支援する活動
  - 授業補助・環境整備
  - 登下校の見守り
  - 花壇や通学校周辺環境の整備
  - 本の読み聞かせ
- ● 地域における
  学習支援・体験活動
  - 放課後子ども教室
  - 地域未来塾
  - 郷土の伝統・文化芸能学習
  - 地域の行事、祭りなど

H29の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）」の改正により、学校運営協議会の設置は努力義務になりました。

※ 学校運営協議会等には、学校運営協議会（地教行法に基づくもの）及び、それに類似したしくみを含みます。類似のしくみとは、法律に基づく学校運営協議会制度ではないものの、学校または中学校区単位ごとに、教育委員会や学校が作成する要綱等により設置されており、地域住民や保護者が学校運営や教育活動について協議し、意見を述べる会議体を指します。

県内のパートナーシップの推移



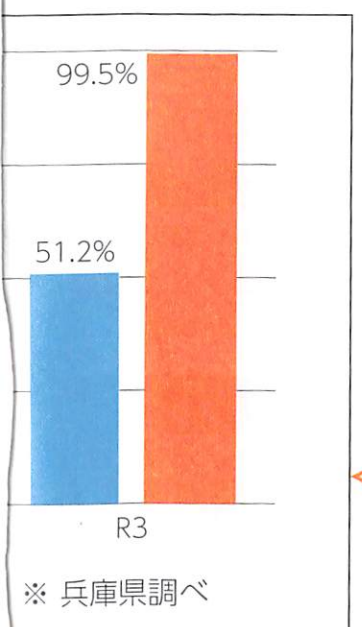
そうした状況の中、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を作る」という目標を学校と地域が共有し、相互の連携・協働のもと学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長をささえていくことが必要です。

地　域

活動に関わる地域住民

参画

- PTA
- 自治会
- 地域団体
- 地元企業
- NPO
- 社会福祉協議会等



※ 兵庫県調べ

学校運営協議会等を設置している学校が、**増加**しています。

Q 学校と地域がパートナーとなると、どんな良いことがありますか？

A 学校だけでなく、保護者・地域の方も、積極的に子どもの教育に携わってもらえるようになります。

- 近所に元気のない様子の子どもがいても、なかなか声をかけづらいです。
- 子どものマナーについて学校へ苦情の電話を入れています。

→

- 地域の方が、子どもたちに積極的に声をかけたり、自ら指導したりする機会が増えます。
- 学校まかせでなく、地域の方と学校が共に対策を考えるようになります。

A 保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、生きがいにつながり、子どもたちの学びや体験の充実にもつながります。

- 一方的な意見が数多く学校に寄せられます。
- 学校が保護者や地域住民の様々な要望の対応に追われています。

→

- 地域の力を活かした、学校運営や教育活動が実現します。
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になります。
- 地域の創意工夫や特性を活かすことで、学校での学びがより豊かで広がりを持つようになります。

A 保護者・地域の方等と学校が“顔が見える”関係となることで、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現します。

- 自分の経験を生かして学校や子どものサポートをしたいが、迷惑にならないか心配です。
- 地域の人と関わる機会が減ってきています。
- 地域人材を活用した学習をしていますが、単発で終わってしまいます。

→

- 学校の現状や方針に対する理解が深まることで、地域が学校の応援団になります。
- 教職員が子どもと向き合う時間が増えます。

その他にも・・・
学校と地域の協力体制が築かれることで、生徒指導、防犯、防災等の面でも課題解決に向けて効果が期待されます。

参考：文部科学省『これからの学校と地域　コミュニティ・スクールと地域学校協働活動』

PTA等による地域学校協働活動

各地のPTA等を中心に、地域の方や関係機関と連携して、学校支援や家庭教育の支援、子どもの安全を守る取組など様々な活動が展開されています。
ここでは、それらの活動の一部を紹介します。

※ 赤　枠は、R3年度優良PTA文部科学大臣表彰受賞団体
※ 水色枠は、R3年度優良PTA教育長表彰受賞団体を、それぞれ示しています。

①

活動例　新温泉町立浜坂南小学校PTA

コロナ禍の中での教育活動のあり方について熟議を重ね、『ひたみちスタイル（レベル１）』（浜坂南小版新たな生活様式）を作成しています。また、地域の方とともにマラソン大会やグラウンドゴルフ大会を実施しています。

②

活動例　県立香住高等学校PTA

幼稚園や保育所等に花を届ける地域貢献活動や、地域の方の協力を得た面接指導等を行っています。

③

活動例　赤穂市立有年中学校PTA

校地整備等、学校が必要とする支援について、PTAが中心となって地域人材との調整をしています。

④

活動例　市川町立鶴居小学校PTA

地域から広く講師を募集し、子どもたちに授業を行う「鶴居まちのティーチャー」を企画し、地域と学校の連携を進めています。

⑤

活動例　加古川市立水足南小学校PTA

新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見のない地域づくりをめざす「シトラスリボンプロジェクト」を、地域全体に広げています。

⑥

活動例　西脇市立しばざくら幼稚園PTA

「地場産業の播州織の魅力を感じて欲しい。」「モノづくりの楽しさを子どもたちに伝えたい。」と思い、地域の会社と連携し子どもの絵を織り込んだ播州織を作成しています。

⑦

活動例　県立東はりま特別支援学校PTA

地域と連携した防災の取組にむけPTA役員が学校が行っている避難訓練に参加したり、地域の方とリサイクル活動をしたりしています。

⑧

活動例　南あわじ市立市小学校PTA

コロナ禍で中止となった運動会の代わりに、PTAが中心となったスポーツフェスティバルを地域と協力して行ったり、親子で参加する講演会を実施したりしています。

⑨

活動例　県立洲本実業高等学校PTA

地域と連携した清掃活動や避難訓練などの地域貢献活動や、地域の方が部活動支援をする調整役をPTAが担っています。

⑩

活動例　豊岡市立豊岡北中学校PTA

コロナ禍の中で差別や偏見のない地域づくりについての啓発文書を作成、配布しています。

⑪

活動例　丹波市立前山小学校PTA

地域と連携したすこやか水田事業や、防災下校、リサイクル活動を実施しています。

⑫

活動例　丹波市立山南中学校PTA

生徒とPTAが、各家庭より搬出される新聞、雑誌、アルミ缶等の集団回収を行っています。

⑬

活動例　芦屋市立西山幼稚園PTA

地域に開かれたコンサートや、絵本の読み聞かせ会、手芸の講習会等を実施し、未就園児の保護者と、地域・園の交流促進の機会を作っています。

⑭

活動例　芦屋市立潮見中学校育友会

小学校PTAと合同の広報誌を、地域団体と連携して発行したり、スマートフォンの安全な利用に関する研修会をオンラインで実施しています。

⑮

活動例　県立尼崎北高等学校PTA

地域の「ふれあい喫茶」で地域の高齢者との交流や学校行事の案内をしたり、ショッピングセンター内の献血ルームで、地域の方とPTAがスタッフとして活動したりしています。

⑯

活動例　県立神戸甲北高等学校PTA

PTAと学校の生徒たちが連携したマナーアップ活動を通じ、地域と学校の交流を促しています。また、介護など保護者のニーズに沿った研修会を実施しています。

※ 全国の、地域と学校が連携・協働した活動の事例は、
文部科学省『**学校と地域でつくる学びの未来**』サイト内でも検索できます。

兵庫県教育委員会事務局社会教育課